

平成30年度

地方創生関係交付金 事業評価調書

目次

＜地方創生推進交付金＞

1. 耕作放棄地を活用した有機栽培の薬草による健康長寿のまちづくり事業・・・P 2
2. 今だけ、ここだけ、貴方だけ観光推進事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・P 5
3. インクルーシブソサイエティ（共生で賑わう社会）推進事業・・・・・・・・・・P 9
4. 企業サテライトオフィスの誘致から広がる持続可能な地域づくり事業・・・P 13

1. 耕作放棄地を活用した有機栽培の薬草による健康長寿のまちづくり事業（地方創生推進交付金）

交付対象事業名：耕作放棄地を活用した有機栽培の薬草による健康長寿のまちづくり事業

事業額：826,000円 交付金充当額：413,000円（補助率1/2）

事業内容

- 人口減少等により増加している耕作放棄地を有効活用し、町内での農業振興を図るため、薬草の試験栽培の実施や、薬膳の効能及び調理方法に係る講座の開催により、健康長寿のまちづくりを目指す。
- 平成30年度は、平成29年度に引き続き、町内の耕作放棄地を活用した町内の農業者等によるヨモギや紅花の栽培を行い、薬膳の効能を学ぶ講座や薬膳料理教室を計3回（7月、10月、11月）開催した。また、町による薬草栽培の経過やその経過を基にした薬草栽培のための手法等をまとめたリーフレットを作成し、町内農業者に配布する等、薬草栽培に資する情報を町内に周知した。
- また、栽培した紅花等を活用したハーブティーを試作し、町内外のイベントにて販売等を行った。

KPI

本事業における重要業績 評価指標（KPI）	事業開始前		本事業終了時の目標値		本事業終了時の実績値	
	現状の値	年月	指標値	年月	指標値	年月
半農半X、週末農家育成、 定年帰農者数（人）	0	H28.4	11	H31.3	16	H31.3
薬草の作付面積（反）	0	H28.4	4	H31.3	3	H31.3
遊休土地登録バンクへの 登録数（件）	0	H28.4	15	H31.3	2	H31.3
薬草の売上額（千円）	0	H28.4	3,000	H31.3	104	H31.3

1. 耕作放棄地を活用した有機栽培の薬草による健康長寿のまちづくり事業（地方創生推進交付金）

事業の効果

- 薬草の栽培については、まちづくりセンター椿坂の北及び多賀地区に約2反の農地を確保し、ヨモギや紅花の栽培を行ったほか、町内14名の農業者の方々にも栽培に取り組んでいただいた。
- 平成29年度に引き続き、薬膳料理教室を3回開催し、延べ約28名の参加を得た。また、今般の事業による薬草栽培の経過やその経過を基にした薬草栽培のための手法をまとめたリーフレットを作成した。今後、町内の農業者等に配布することにより、薬草に関する町内への周知を図る。
- 町で栽培した紅花を用いてハーブティーを試作し、町内外のイベントにて販売等を行い、49,000円の売上を計上した。

今後の展開

- 平成30年度を以て地方創生推進交付金を活用した事業としての事業期間が終了したことから、今後は、本事業の成果を踏まえた取組として更なる展開を図っていく。
- 具体的には、これまで町が中心となっていた耕作放棄地の活用について、井手町まちづくり協議会が引き継ぐこととし、今般の事業により蓄積された栽培ノウハウを活かしつつ、町民が主体となった薬草その他の町の特産となり得る作物の栽培を推進する。
- また、その生産物については、平成30年度末に開設した「むすび家カフェ」との連携による活用を図り、町の名物となるようなメニューの開発等を進めることとする。
- なお、町内の空き地については、これまでの調査により得られた町内空き地の所在情報を基にした更なるデータの整理や、制度の周知等による空き地バンクの充実等を通じた利活用を推進するための方策を検討する。



井手町地域創生推進会議による効果検証の結果

KPI（目標）に有効であるか	票数
有効であった	1
どちらかといえば有効であった	8
どちらともいえない	3
どちらかといえば有効とはいえない	0
有効とはいえない	0

委員の主なコメント

- 耕作放棄地を放置しておくとうちが荒れてしまうため、今回のような薬草栽培は有効な手段である。薬草に限らず、他にも有効な活用方法を考えてはどうか。（まちづくり団体）
- 「健康長寿のまちづくり」としての活動において、小学生・中学生の参加を促すイベントも加えたい。このイベントの参加により、自ら住む町への愛着、親・先祖への感謝の気持ちを少しでも感じることで、若年層の町外流出に歯止めが掛かれば良いと思う。（金融機関）
- 医療費抑制という視点で薬草作りに取り組んだユニークさが楽しく、今後も井手町まちづくり協議会が引き継ぐとのことであるため、一定の成果があったのではないか。（言論機関）
- K P I 指標からすると、4項目中3項目が目標値未達成状態であるが、達成率の数値だけでは計れない点もある。今後とも薬草栽培などの地域振興を「まちづくり協議会」を通じてバックアップしてほしい。（行政機関）
- 兵庫県丹波市にある薬草薬樹公園のように、薬草そのものを観光資源とすることや、ハーブティーの使用後の殻を使った薬草風呂などの展開を図ってみてはどうか。（産業界）
- 有機栽培の薬草等、目玉になるようなものを他にも考えたほうが良いのでは。また、ハーブティーへの関心は強いが、手に取れる機会が少ない。料理教室も幅広い年代の人に興味を持ってもらえるようにアピールしてほしい。（子育てサークル）
- K P I 指標では、売り上げ目標値の未達成となっており、販売方法やマーケティングを再考すべき。空き家バンクは一定の実績をつくれたと思うので、耕作放棄地にも今後注力してほしい。（産業界）

2. 今だけ、ここだけ、貴方だけ観光推進事業（地方創生推進交付金）

交付対象事業名：今だけ、ここだけ、貴方だけ観光推進事業

事業額：1,802,000円 交付金充当額：901,000円（補助率1/2）

事業内容

1. 山背古道観光推進事業【実績額：500,000円】

山背古道とその沿線振興のため、ウォーキングイベント（山背古道は一ふウォーク・とことんウォーキング）や山背古道PR動画の作成等を行い、「祖父母・親・子」3世代の繋がりを築くきっかけとして、交流人口の拡大や地域消費の活性化を行う。

2. お茶の京都DMO分担金【実績額：1,302,000円】

地方創生加速化交付金により設立した「お茶の京都DMO」に分担金を支払い、広域・統一ブランディングでの観光・集客サービスや農・商地域産品のマーケティングの実施等を深化させる取組を実施する。

（井手町関係の主な取組内容）

- ① 着地型旅行商品の企画
 - ・ 京田辺市、宇治田原町との共同で「家康伊賀越えの道講演会」を開催。
- ② FAMツアー（国内の旅行事業者等に向けた観光商品の企画促進のための現地視察ツアー）
 - ・ 野の花工房（8月・12月）及びみどり農園（12月）の視察ツアーを実施。
- ③ 情報発信・プロモーション事業
 - ・ 旅行事業者が参加する様々なイベントにおいて、井手町の観光情報を発信。

2. 今だけ、ここだけ、貴方だけ観光推進事業（地方創生推進交付金）

KPI（府全域）

本事業における重要業績評価指標（KPI）	事業開始前		本事業終了時の目標値		数年後の目標値		本事業終了時の実績値	
	現状の値	年月	指標値	年月	指標値	年月	指標値	年月
観光消費額 （億円／年間）	8,138	H28.3	10,455.2	H31.3	12,000	R3.3	13,701	H31.3
観光入込客数 （万人／年間）	8,374	H28.3	9,249.6	H31.3	10,000	R3.3	8,505	H31.3
外国人宿泊者数 （万人／年間）	186	H28.3	317.9	H31.3	426	R3.3	459	H31.3

（参考値）井手町における各KPIの状況（H30年度）

・観光消費額（億円／年間）… 1.1 ・観光入込客数（万人／年間）… 37.5 ・外国人宿泊者数（万人／年間）… 0



神君伊賀越えの道 講演会



山背古道とことんウォーキング
（アナログ遊びプロジェクト）



山背古道PR動画

2. 今だけ、ここだけ、貴方だけ観光推進事業（地方創生推進交付金）

事業の効果

- 平成30年度に開催した山背古道は～ふウォーク及びとことんウォーキングは、合計約1,250人の方々が参加し、盛況となった。また、とことんウォーキングに併せて椿坂公園で行われたアナログ遊びプロジェクト（ベーゴマやドングリ人形づくり等）では、子どもやその保護者など約120名が参加し、昔ながらの遊びを通じて幅広い世代の交流及び山背古道の周知が図られた。
- お茶の京都DMOにより、観光商品の開発促進のため、旅行事業者等に現地を視察していただく「FAMツアー（視察先：野の花工房・みどり農園）」を開催し、旅行事業者31名、ホテル・旅館の担当者25名が参加され、井手町の地域資源の商品化に向け周知が図られた。
- 京田辺市及び宇治田原町との連携により、「家康伊賀越え」にちなんだ広域観光事業を実施。平成30年度に京田辺市で開催された「家康伊賀越えの道講演会」は定員の140名を超える集客となり、今年度に本町で開催された「家康伊賀越えツアー」も定員の40名を超える方々にお越しいただき、井手町の魅力の発信につながった。

今後の展開

- 山背古道ウォーキングイベントを引き続き開催するとともに、山背古道をきっかけとした域内消費の喚起や沿線観光スポットへの一足伸ばしを誘発する取組等を検討する。また、今年度では、本町のアナログ遊びプロジェクトについて、若い世代の関心をより高めるため、京都産業大学井手応援隊と連携した取組を検討する。
- お茶の京都DMOとの連携により、地域資源の商品化や更なる掘り起こしを行い、本町への更なる誘客を目指す。また、伊賀越えツアーのような井手町を含む広域観光・周遊プランの作成も促進し、観光入込客数や観光消費額の増加を目指す。

井手町地域創生推進会議による効果検証の結果

KPI（目標）に有効であるか	票数
有効であった	4
どちらかといえば有効であった	8
どちらともいえない	0
どちらかといえば有効とはいえない	0
有効とはいえない	0

委員の主なコメント

- 概ねKPI値も達成の域にあり、目的を達成できている。京都府全体では未達成となっている観光入込客数も町単体で見れば達成している状況にある。指標としては十分であるが、町の観光面については今後、更なる展開を検討していくことが必要であると考えます。（行政機関）
- 「家康伊賀超え」ツアーが定員を超える方々に参加されたということで面白い企画だと思った。山背古道は～ふウォーク及びとことんウォーキングは盛況とのことでよかった。（産業界）
- 子育て世代にも目を向けた遊び等はよかった。スタンプラリー等も楽しそう。（子育てサークル）
- 子供たちが大きくなったら、ぜひ色々なイベントに参加したい。（子育てサークル）
- 継続的に観光PRをやり続けるのは大変だ。PRせずとも人が来るような仕掛け作りが必要ではないだろうか。（言論機関）
- 井手町単体での観光事業は限定的なので、近隣市町村との連携に留まらず、奈良県等の近隣他府県と連携したツアーの企画等が必要と思う。（金融機関）
- 府内の数値に比べ、町内の外国人宿泊者数が0という所を見直す必要があるのではないかと。かつて、井手町は宿場町だった。その歴史を活かし、今後はFAMツアーの強化を図るべきではないかと。（産業界）

3. インクルーシブソサイエティ(共生で賑わう社会)推進事業(地方創生推進交付金)

交付対象事業名：インクルーシブソサイエティ(共生で賑わう社会)推進事業

事業額：10,058,628円 交付金充当額：5,029,314円(補助率1/2)

事業内容

1. 特別支援学校設立に向けた障害者等の社会参画支援事業【実績額：5,588,628円】

- ①障害者就労支援のための訓練施設通所事業【実績額：384,405円】
- ②外出困難な障害者福祉タクシー事業【実績額：915,200円】
- ③高齢者や障害者の生きがい通所事業【実績額：3,809,000円】
- ④高齢者(障害者等)のための図書館出張貸出事業【実績額：377,515円】
- ⑤高齢者から幼児への絵本読み聞かせ事業【実績額：102,508円】

2. 地域で活躍する高齢者による地域コミュニティ再生に取り組む団体への補助金【実績額：4,470,000円】

- ①町内の地域資源(史跡や旧跡、玉川)整備事業【実績額：70,000円】
- ②青少年健全育成事業【実績額：350,000円】
- ③美しいまちづくり推進事業【実績額：550,000円】
- ④健全な体育・スポーツ活動の普及、振興による明るいまちづくり推進事業【実績額：3,400,000円】
- ⑤高齢者(障害者等)の食生活改善活動を実施している団体への補助【実績額：100,000円】

3. インクルーシブソサイエティ(共生で賑わう社会)推進事業(地方創生推進交付金)

KPI (府全域)

本事業における 重要業績評価指標 (KPI)	事業開始前		本事業終了時の 目標値		数年後の目標値		本事業終了時の 実績値	
	現状の値	年月	指標値	年月	指標値	年月	指標値	年月
スポーツ、文化、芸術、レクリエーション活動への障がいのある人の延べ参画者数 (年間)	11,636	H28.3	15,000	H31.3	17,000	R3.3	11,362	H31.3
農福連携に係る地域交流イベントの参加者数 (人/年間)	751	H28.3	1,250	H31.3	1,750	R3.3	1,260	H31.3
農業実施事業所における平均工賃月額の上昇 (円)	17,180	H28.3	18,600	H31.3	19,800	R3.3	未発表	H31.3

3. インクルーシブソサイエティ(共生で賑わう社会)推進事業(地方創生推進交付金)

事業の効果

- 訓練施設通所事業や福祉タクシー事業については、昨年度並みの利用件数・利用者割合(57%・75%)となっており、支援を必要とする障がいのある方の社会参加促進に寄与している。また、「高齢者や障害者の生きがい通所事業」の事業内容について、利用者のニーズに合わせ、実施場所である「井手の里」内で行えるような体力的な負担が少ない内容のものを充実させたため、申請者数が昨年度に比較して大幅に増加(H29:17人→H30:23人)し、高齢者や障がい者の社会参加の促進が図られた。
- 図書館出張貸出事業では、高齢者の方から「本を読む機会の確保につながっている」と引き続き評価を得ているほか、絵本の贈呈事業についても、対象者数に対する利用者数の割合が増加しており、幼児が本に親しむ機会の増加に寄与した。また、井手町合併60周年を記念し、町民体育大会での京都産業大学の協力によるチャリーディングを行うとともに、各種大会での参加賞や景品を充実させる等、住民が更に楽しむことができる交流の場づくりを推進した。
- その他地域団体の活動にも、高齢者等をはじめとして、多くの住民の方々が参加しており、住民参加のまちづくりの推進に寄与している。

今後の展開

- 高齢者や障がいのある方の地域社会への参加を引き続き促進するため、従来の事業を継続しつつ、その運用面での改善等を図っていく。具体的には、以下のような取組を進める。
 - ・ 生きがい通所事業について、利用者の使い勝手を改善するため、事業に参加するに当たっての運用面についても改善(簡素化)を図る。
 - ・ 社会福祉協議会や保健センター、食生活改善推進協議会等が提供する様々なサービスに関する情報が錯綜しており、受け手にとって分かりにくくなっているとの利用者からの指摘を踏まえ、様々な機関からの情報を一元的に提供する等、利用者にとって分かりやすい情報提供体制の構築を進める。
 - ・ 絵本読み聞かせ事業の対象となる絵本のラインナップについて、直近の出版状況等を踏まえた見直しを行う。

井手町地域創生推進会議による効果検証の結果

KPI（目標）に有効であるか	票数
有効であった	7
どちらかといえば有効であった	5
どちらともいえない	0
どちらかといえば有効とはいえない	0
有効とはいえない	0

委員の主なコメント

- 障害者や高齢者に対して、今後も継続して支援事業をしてほしい。（産業界）
- まちづくり推進事業や体育大会等、活動的な姿を見ることが出来た。（金融機関）
- 必要な福祉施策をやられている印象。目標に対する達成数値もよいのではないだろうか。（言論機関）
- 高齢者や障害者の方のニーズに合わせた取り組みが良くなってよかった。（子育てサークル）
- 既存事業も多いが、一定の成果を得ている。（行政機関）
- 井手町においても、一層の高齢化が進むことが予想されるため、高齢者が生き生きと過ごせる町づくりの取り組みが必要。（まちづくり団体）
- 高齢者や障がいのある方の地域社会への参加を引き続き促進すべく、アンケート調査の実施等による「生の声」を吸い上げ、課題解決に努めてほしい。（金融機関）
- 絵本の贈呈事業は、保護者からも大変好評を得ている。（子育てサークル）
- KPI 指数が未達成ではあるが、訓練施設やタクシー事業について利用者割合75%は評価できる。（産業界）
- 八幡竹クラブのように、子供たちが高齢者と話して地域愛を受け継ぐことができる事業をしてもよいのではないか。（産業界）

4. 企業サテライトオフィスの誘致から広がる持続可能な地域づくり事業(地方創生推進交付金)

交付対象事業名：企業サテライトオフィスの誘致から広がる持続可能な地域づくり事業

事業額：5,897,844円 交付金充当額：2,948,922円(補助率1/2)

事業内容

1. 空き家を活用した京都産業大学井手応援隊活動拠点事業【実績額:4,412,844円】

① 京都産業大学井手応援隊活動拠点「むすび家ide」運営事業【実績額:3,412,844円】

地域の「学びと交流の場」として、町内小学校の児童を対象とした学習イベント「寺子屋」の運営支援や、町家カフェの開設に向けた施設改修を行うことにより、まちの賑わいづくりを図る。

② 学生による地域課題解決支援事業【実績額:1,000,000円】

平成の名水玉川や山城竹などの地域資源に着目した取組や、町内の様々な団体と連携したまちづくりの取組の検討を支援することにより、学生と連携した地域課題の解決を目指す。

2. 地域課題解決に取り組むまちづくり団体の活動拠点運営及び団体活動支援事業【実績額:1,485,000円】

井手町まちづくり協議会に対する「井手町まちづくりセンター椿坂」の運営費用の支援を通じ、まちの魅力の情報発信及び交流人口の拡大を図る。



むすび家カフェの開設



キャップストーンプログラムの推進



まちづくり協議会と井手応援隊が連携した玉川清掃

4. 企業サテライトオフィスの誘致から広がる持続可能な地域づくり事業（地方創生推進交付金）

KPI（府全域）

本事業における重要業績評価指標（KPI）	事業開始前		本事業終了時の目標値		数年後の目標値		本事業終了時の実績値	
	現状の値	年月	指標値	年月	指標値	年月	指標値	年月
本事業の取組によるサテライトオフィスの誘致件数（件／年間）	0	H29.3	4	H31.3	29	R4.3	0	H31.3
本事業の取組により田舎の地域で就職した者数（人／年間）	93	H29.3	115	H31.3	148	R4.3	130	H31.3
本事業の取組により大学等と連携した地域課題解決のためのフィールドワークに参加した学生数（人／年間）	5,181	H29.3	5,770	H31.3	6,580	R4.3	6,871	H31.3

（参考値）井手町における各KPIの状況（H30年度）

- ・ 本事業の取組によるサテライトオフィスの誘致件数（件／年間）… 0
- ・ 本事業の取組により田舎の地域で就職した者数（人／年間）… 1
- ・ 本事業の取組により大学等と連携した地域課題解決のためのフィールドワークに参加した学生数（人／年間）… 80

4. 企業サテライトオフィスの誘致から広がる持続可能な地域づくり事業（地方創生推進交付金）

事業の効果

- 「むすび家ide」については、京都産業大学井手応援隊等により、寺子屋（7月～10月）等が開催され、延べ計117名の利用があった。また、キッチンやトイレ等の施設の一部を改修し、町家カフェ「むすび家カフェ」を開設した。平成30年度末よりオープンし、井手応援隊の協力の下で毎週末を中心とした営業を行い、令和元年7月末時点にて延べ約1,300人の利用があり、小学生に限られない幅広い町民の交流促進及び町の食の魅力発信に寄与している。
- 「井手！みねーしょん」については、新たに「むすび家ide」をイベント会場に加える等、規模を拡大した上で町の魅力を発信するイベントとすることができた。また、平成30年度より開始した、町内の具体的課題についての検討やその解決方法の提案を学生に依頼する「キャップストーンプログラム」により、泉ヶ丘中学校との連携により本町の魅力を子ども達に学んでいただく「まちづくり教育」の充実が実現に向かう等、町内団体によるまちおこし活動の進展に寄与した。
- 井手町まちづくりセンター椿坂では、従来に引き続き、さくらまつりでのたけのご飯の提供や、井手応援隊とも連携した秋の地域活性化イベント（「時代絵巻行列」等）等を開催し、交流人口の拡大に寄与した。

今後の展開

- 「むすび家ide」では、従来の寺子屋活動等の取組に加え、平成30年度末に開設した「むすび家カフェ」について、町内団体等との連携を深めながら運営を進めることにより、町内外の人々の交流の更なる促進及び井手町の食の魅力のPRを図る。
- 「井手！みねーしょん」については、継続的な町の魅力の発信につなげるため、開催期間の長期化（現行：一夜限り）を検討する。また、平成30年度に引き続き「キャップストーンプログラム」を推進し、まちづくり教育の実践その他町内団体のまちおこしの機運醸成に資する取組を進める。
- 開設より15年を経た井手町まちづくりセンター椿坂では、周辺の耕作放棄地を活用した事業を新たに開始し、当該農地で生産される作物を活用した自然体験事業等を進めることで交流人口の増加等を図っていくとともに、「むすび家カフェ」との連携により、収穫された作物を活用したオリジナルメニューの提供等を行うことで、地産地消の推進や井手町の食の魅力のPR等に努める。

井手町地域創生推進会議による効果検証の結果

KPI（目標）に有効であるか	票数
有効であった	7
どちらかといえば有効であった	5
どちらともいえない	0
どちらかといえば有効とはいえない	0
有効とはいえない	0

委員の主なコメント

- 井手応援隊の大西ゼミの方々には、今後も継続してイベント等の実施協力をお願いしたい。（産業界）
- 町民にこのような良い事業があることをもっとPRできればと思う。（産業界）
- このような地域づくり事業が、まちを元気づける。交付金を取り込んでの事業として有効だろう。「むすび家」を起爆剤としたまちづくりに期待したい。（言論機関）
- サテライトオフィス実績0が評価を下げるが、京都産業大学生による実績は評価できる。むすび家ideを拠点とした活動拡大に期待する。（産業界）
- 町内外の人々との交流は不可欠であり、各種イベント開催等によるまちおこしの機運醸成を図る取組を進めてほしい。（金融機関）
- むすび家カフェ等町内外の人々の交流を図れるようになってよかった。井手！みねーしょんについては、牛乳パックより、椿坂付近でやっていたペットボトルのLEDの作品の方がより多くの人が見に来てくれるように感じる。ホームページ等、PRしてほしい。ラジオ体操ももっとPRすべき。（子育てサークル）
- サテライトオフィスがKPI未達である。全体としても困難な事業であった。サテライトオフィスは、交流人口や関係人口にも寄与することが期待できるので引き続き考えたい。大学連携はこれまでの取組も踏まえ、非常に大きな効果が得られたと考えられる。（行政機関）
- むすび家ideの更なる活用方法を考える必要もあると思う。（まちづくり団体）
- 多賀地区の子供たちは、送迎などの関係で、寺子屋などに参加しづらいという話も出ている。駐車場があるということを知らない人も多い。広めてママ友と子供たちとカフェにも行きたい。（子育てサークル）